

## 令和5年松本市議会第1回臨時会

### 招 集 あ い さ つ

[5.5.18(木) 10:00]

本日、令和5年松本市議会第1回臨時会を招集しましたところ、議員の皆様方に揃ってご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

先月23日に執行された松本市議会議員一般選挙後、初の市議会の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

改めまして、この度の選挙において、市民の負託を受け、晴れて当選の栄に浴された議員の皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

伝統ある松本市議会の議員として重責を担われ、松本市の振興と発展にご尽力されますことを、ご期待申し上げます。

3年余り続いたコロナの軛くびきから解き放たれ、松本市内は、コロナ前を上回る賑わいを見せています。大型連休中、信州まつもと空港を発着する定期路線の利用率が80パーセントを超え、外国人旅行者を含め、松本に向かう人の流れは、着実に太くなっています。

コロナの収束とともに、日本経済が正常化に向かい始めました。外国人投資家が日本株に投資の魅力を感じ、昨日、日経平均株価が3万円台に回復しました。

1990年代以降、日本は成長できない国になったとみなされてきました。長く続いたデフレと昨年来の円安で、日本が「安い国」になっている今こそ、経済を正常化し、再び成長できる国になる、大きなチャンスだと考えます。国内投資を拡大し、イノベーションを加速し、国民所得を向上させることが求められています。

この潮流を見逃さずに、松本のシンカを加速させ、市民一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまちをつくるため、松本市は、先月開催した総合戦略会議の議論の結果を、「“骨太の方針”5つの重点戦略ディレクション」として、全庁で共有しました。

この中では、重点戦略の1つとして、新たに「市街地活性戦略」を盛り込み、松本駅前と伊勢町・本町エリアのグランドデザインの描

き直し、あがたの森通り南側の高度化・集積化、自家用車駐車場を含む駅前ロータリーの再編などについて、具体的な取組みを検討していきます。

また、重点戦略の柱となる「人口定常化戦略」では、具体的かつエリアを絞った住宅政策、ジェンダーギャップ解消による「共働き・共育て」社会の実現、自ら学び続ける力を育む公教育の多様化・最適化などについて、検討を加速していきます。

先月27日、長野県の阿部知事の呼びかけで、「知事と中核市市長の懇話会」が開催されました。席上、知事からは、自治分権の強化が必要だとして、長野・松本両市から要望があれば、更なる権限移譲を検討する考えが示されました。

私からは、来年度から障がいのある子どもたちを包括的に支援する「インクルーシブセンター」を開設することなどを紹介し、松本市が「多様な学び」を主体的に展開するために、学校教育に関する権限の移譲を求めているという意向を伝えました。

今後、知事との対話を継続し、東京一極集中の是正と松本市の人口定常化につながる、具体的な協議を進めていきたいと考えています。

最後に、まつもと市民芸術館の「芸術監督制」について申しあげます。

昨年10月に設置した検討委員会が、およそ半年の議論を重ねてきましたが、先月下旬、「芸術館の方向性」「あるべき姿を具現化する芸術監督制」「芸術監督の候補者選定」という3つの諮問事項に対する答申を受けました。

この中では、演劇以外にもダンスや音楽、伝統芸能など多様な文化芸術作品を鑑賞できる場を提供すること、これまでに芸術館を訪れたことがない人でも気軽に足を運び、市民の誰もが自由に文化芸術に親しめるような取組みを行うこと、次代を担う子どもに必要な力を養う場としての機能も持たせていくことが必要だ、と示されています。

そして、演劇部門と舞踏部門を専門とする2名の芸術監督と、芸術や地域の魅力を発信できるアドバイザー1名を配置した「芸術監督団」体制とすること、様々なニーズの変化がある中で、変化を着実に

捉えて次世代を担っていける人材を登用することなどが答申されました。

松本市としては、この答申の内容を最大限尊重し、現在、「芸術監督団」体制の候補者3名の方々と、芸術館の方向性に対する考え方を確認し、就任に向けた交渉を続けています。

来月中を目途に新たな「芸術監督団」体制を固め、多様で質の高い文化芸術を発信する、誰もが自由に文化芸術に親しめる、そして、次代を担う子どもに必要な力を養う劇場となるよう、市民の皆さんとともに力を尽くしてまいります。

議員の皆様方には、くれぐれも健康にご留意をいただき、これから4年間、市民の代表として、松本市の発展のために大いに活躍されることを重ねてご祈念申しあげ、招集のあいさつといたします。

(以 上)